学力向上推進チームかわら版
あしあと
第 89 号

発行　令和６年９月４日
富山県総合教育センター
　学力向上推進チーム
TEL：076（415）6226
E-mail：suishin@tym.ed.jp
https://kyoinouen.tym.ed.jp

がんばる富山の
先生を応援！

「富山県教員応援サイト」をご活用ください

全国学力・学習状況調査の分析に役立つ「分析支援ソフト 我が校の学力・学習診断ソフト」と「説明動画」を掲載しています。

ソフトはダウンロードしてお使いください。
※パスワードは「R6gkst」です。（パスワードの取扱いにご留意ください。）

日頃の指導を振り返る機会に　～全国学力・学習状況調査の結果を基にして～

国語と算数・数学の調査問題について、本県で多かった誤答を基に、指導のポイント例を示します。調査結果を基にして日頃の指導を振り返り、各学校の教育指導や学習状況の改善・充実に生かしましょう。

小学校国語　３三

【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く

・心に残ったところを書いているが理由を書いていない、物語から言葉や文を取り上げているが心に残ったところを書いていない児童が合わせて 11.5%（全国 11.5%）である。

人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるようにしましょう。

三　原さんは、島さんと話し合ったあと、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。
〈条件〉
○ 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。
○ 【物語】から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

指導のポイント例
・児童自身が「人物像」や「物語の全体像」「表現の効果」のどの観点で読んだのかを明確にしていくことができるよう、友達が着目したところと自分が着目したところを比べる場を設ける。
・自分の考えを適切に表現することができるよう、「なぜかというと」や「～からです」など、思考そのものに関わる語句や、「～のところから」など根拠を表す語句を例示する。

小学校算数　3(3)

直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く

(3)　直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。
　このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。
　この立方体の形をした紙の箱の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

・22×3.14 のように、円周率を用いて体積を求めると誤って捉えている児童が 18.7%（全国 16.0%）、22×22 のように面積と誤って記述している児童が 6.5%（全国 8.5%）である。

図形を構成する要素を見いだし、それらを活用して体積を求めることができるようにしましょう。

指導のポイント例
・立方体や球を真上や真横から観察するなどして、球はどこから見ても同じ円であることや、その円の直径は球の直径と等しく、立方体の一辺と等しいことを理解できるようにする。
・立方体の体積は、一辺の長さを測り、(一辺)×(一辺)×(一辺)の式で求められることを理解できるようにする。

中学校国語　１四

話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く

・実際に話すように書くことはできているが、条件１、２のいずれかを満たしていない生徒が 31.9%（全国 32.0%）である。

話題や展開を捉えながら話し合い、発言を結び付けて自分の考えをまとめることができるようにしましょう。

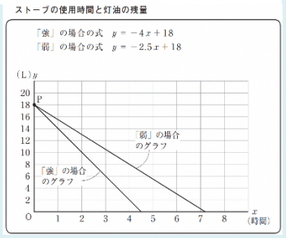
四　【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件１と条件２にしたがって、実際に話すように書きなさい。
　なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。
条件１　フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。
条件２　【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのかが分かるように書くこと。

指導のポイント例
・グループで話題を決めて話し合い、その序盤で話題について共通理解したり、発言がある程度出された段階で内容を整理したりしながら、自分の考えをまとめる学習活動を設定する。
・ICTを活用し、自分の考えが話合いの話題や内容とどのように結び付いているのか、そのつながりが分かるようにまとめることができたかなどを、観点を示して振り返る場を設定する。

中学校数学　8(2)

18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する

下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。
ア　「強」の場合の式 y＝－4x＋18 と「弱」の場合の式 y＝－2.5x＋18
イ　「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ



・式やグラフから「差」を求めることについて記述しているが、それぞれの式にｙ＝０を代入することや、グラフのｙ座標が０である点に着目することについて記述されていない。

問題解決の方法を数学的に説明できるようにしましょう。

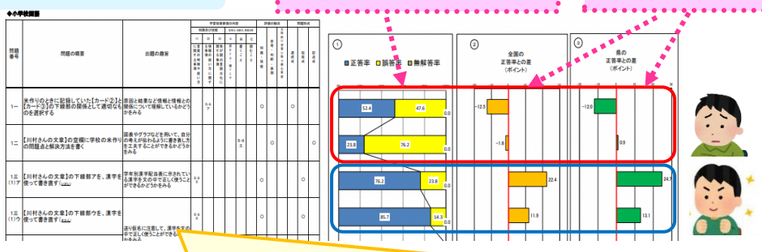
指導のポイント例
・問題解決の方法について、式やグラフをどのように用いればよいかを説明する活動を取り入れる。
・表現が不十分な説明を取り上げて、問題解決の見通しや過程を共有した場面を振り返りながら、解決の方法として、十分な説明にしていく活動を取り入れる。

※９月中旬に富山県教員応援サイトに掲載予定の「課題のみられた問題」から抜粋して紹介しています。

成果と課題の把握には「我が校の学力・学習診断ソフト」が便利です

教科に関する結果

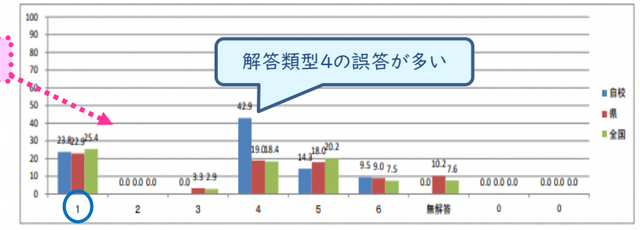
正答率・誤答率・無解答率　　県・全国の平均との比較

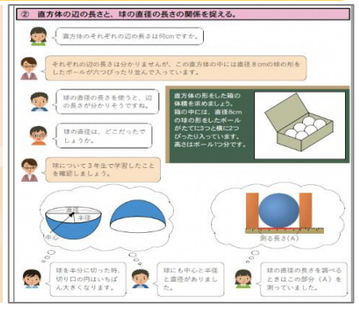


どの問題ができていて、どの問題ができていないのかを把握し、児童生徒にその力が付いていない**要因を分析すること**が大切です。

正答率の高い問題から順に並び替えることもできます。学力の状況を分析し、自校の「強み・弱み」を把握しましょう。

解答類型の確認



正誤だけでなく、誤答の状況(どこでつまずいているのか)にも着目して、学習指導の改善・充実を図りましょう。

「報告書」には、授業の改善・充実を図る際の参考となる授業アイディア例も掲載されています。